

北九州シオン教会 2023年5月21日(日)
李 泳善(イ・ヨンソン) 師
ヨハネの福音書15:1~5 「霊的な絆」



ヨハネの福音書15章 【新改訳改訂第3版】

- 15:1 わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。
- 15:2 わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。
- 15:3 あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。
- 15:4 わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。
- 15:5 わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。

ヨハネの福音書15章は十字架に向って行くイエス様が弟子たちに最後に残す御言葉に該当します。

3年間の弟子訓練がもう終わろうとしています。
これから十字架、復活、聖霊降臨、初代教会の始まり、宣教と迫害… このようなことが起こります。

今後、神の国のすべてのことは弟子たちに任せられます。弟子たちは、今後何が起ころうとも、最後まで福音を持って、地の果まで行かなければなりません。

その働きをするために弟子たちに何が必要かをイエス様は知っていました。それはイエス様とつながっていることです。



イエス様は自分と弟子たちがつながっていないと言われます。

そしてそれをぶどうの木と枝の例えで説明しています。その内容は次のとおりです。1節を一緒に見てみましょう。

1”わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父は農夫です。

ここでイエス様は自分自身を真の木だと言われます。そして神様は農夫ということです。

農家がぶどうの木に望むものは何ですか？
それはブドウの木が良い実を結ぶことです。
そういう意味でイエス様は神様の真のブドウの木だということです。
それでは神様が農夫であり、1 イエスは真のブドウの木です。
これは完璧なコンビです。

2”わたしの枝で実を結ばないものはみな、父がそれを取り除き、実を結ぶものはみな、もっと多く実を結ぶために、刈り込みをなさいます。

今、農民とぶどうの木は準備ができています。
最後に必要なのは枝です。
枝が実を結ぶようになります。
しかし、その枝が実を結ばないとどうなりますか？
その結果、実を結ぶことができない枝は農夫が切ってしまうでしょう。
逆に実を結ぶ枝は、より実を結ぶようにお手入れされるということです。

これを見て神様は冷静なのだ…。怖い…と考えてはいけません。
これは冷静ではなく当然のことです。
皆さん、農夫にとってこうするのは当然のことです。

そういう意味でこの世に裁きがあるのは当然のことです。
神様が恐ろしい方ではなく、裁きが存在するのが当然のことです。
聖書はこれを明確に語っています。
もちろん、神は愛です。これは明らかな事実です。
しかし同時に、神は裁きの主人です。

私たちの人生はその意味で審判に備えなければなりません。
ヘブル 9:27 はこう述べています。
9:27”そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、”

私たちの人生の最も本質は金持ちか、貧しいか
長く生きたか、短く生きたか
いい人なのか悪い人なのか…
このようなことも重要ですが、最終的に私たちが実を結んだかどうか
本質的な問題なのです。

3”あなたがたは、わたしがあなたがたに話したことばによって、もうきよいのです。

イエス様は弟子たちに向かって語られます。
あなたたちは私が言ったことによってきれいです。
イエスは3年間弟子たちに教えました。
最初、弟子たちはイエスをただ素晴らしい先生のラビとして認識しました。
しかし、イエスの奇跡と言葉と教えを通して、
彼らはイエスがキリストだということ、神の御子であることを悟りました。
イエス様は水をぶどう酒に変え、
水の上を歩いて、
嵐を静めて、

病人を直して、
二匹の魚と五つのパンで五千人を養いました。
イエス様は天国の秘密を教えられました。

これにはすべて、目的があります。
それはイエス様が救い主であることを悟らせることです。
イエス様は私たちが罪から救ってくださる方であり、
イエス様は私たちが死から永遠の命に導かれる方であり、
イエス様は私たちが律法の限界で完全な恵みをくださる方です。

私たちが罪から救うのは罪人には出来ないことです。
私たちが死から永遠の命に導く人は死にとどまることがありません。
私たちに神様の完全な恵みをくださる方は律法を超越された方です。
それで、それを見せるために、イエス様は奇跡を見せてくださったのです。

3年が過ぎると、弟子たちはやっと悟りました。
それでペテロが信仰告白をしたのです。
イエス様はキリストです。
生きている神の子です…。

今、弟子たちはこの告白の言葉を知りました。
彼らはイエス様が望む救いの実を結ぶ枝として
だからきれいな枝です。

それでは考えてみましょう。
神は農夫です。
イエスはぶどうの木です。
弟子たちはきれいな枝です。



完璧な準備が整いました。
今何が必要ですか？

さて、ここで一つ必要なものがあります。
それがこの枝がブドウの木につながることです。

4”わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。
枝がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。

2011年に東北地方で地震と津波が起きました。
多くの人々が犠牲になりました。
その時、地震や津波で犠牲になった人が多かったのですが、
それ以来、家族や財産と人生の希望を失い、困難に生きている人がたくさんいます。
その当時、人々の口にたくさん上がった言葉がありました。
それは絆(キズナ)でした。

なぜ人々は絆をそのように強調したのでしょうか？
絆は人と人を繋いで結び合わせてくれるという意味です。
難しく痛い時、結局人を助けて救うのは人という意味でしょう。

10年前、私は梅光大学の学生を連れて東北地方のボランティアに行きました。
その当時、家を失って仮設住宅に住む方々を訪れました。
ところが、そこには70代の女性が一人で暮らしていました。

この方は40代程度に視力を完全に失ったまま生きていました。

また、がんのために闘病をしていました。

彼女は地震と津波が来たときの話をしてくれました。
地震が起きて家が揺れた時、この方は家の中で死を迎えようとしていました。
年齢もあって目も見えず、病気も持って…
ところで上から薬袋が落ちました。
それに触れた瞬間生きなければならないと決心しました。
それで玄関のドアを開けて出ました。
高いところに逃げて…という声が聞こえました。
だから叫びました。
「誰か助けてください…」
そうすると、誰かが自分の手を握って山に一緒に行ったということです。

彼女は学生に教えてくれました。
「誰か助けてください…とってください。」
「それではあなたを助けてくれる誰かが必ずいます。」
その時、体が健康な人も犠牲になりました。
ところが、目の見えない私のような人は助けられました。

私はその老人の言葉が今でも忘れられません。
これがまさに絆の意味だと思います。
結局、人間は孤立してはならないのです。
誰かとつながらなければなりません。
そして助けが必要なとき、
私を助けて…とえば誰かが助けてくれるということです。

私はその言葉で今日聖書を解釈したいと思います。
私たちの人間の人生には死があります。
人は必ず死と罪とこの世の苦しみに直面します。

しかし、このような人生で私たちが罪から赦しに
死から永遠へ
裁きから恵みに導くことができる人は唯一の方はイエス・キリストです。

“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」のです。” ローマ人
への手紙 10章 13節

私たちは今日一緒に集まり、一緒に礼拝をささげています。
私たちは皆、イエス様の御名を信じ、その名を受け入れた人たちです。

5”わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、
わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結
びます。わたしを離れては、あなたがたは何もするこ とができないから
です。”

私が以前働いていた教会は松山にあります。
その教会を開拓した宣教師様はミス・フランシスという方です。
彼女が宣教を終えてアメリカに戻って天国に行く前に言われた言葉が
あります。
「若い頃には私が一生懸命働くと実が結ばれると思った…。
しかし今考えてみると、実は私が一つの種で死んだときに結ばれる…。」

私はその言葉を考え、今日の言葉を見ます。
実は私がイエス様とつながっていると結ばれます。

私は 2012 年から 3 年間梅光で働いていました。
2015 年から 8 年間、大阪で教会を牧会しました。
主は今年から再び梅光で働くようにここに送られました。
教会牧師として働くときは、私の周りがほぼクリスチャンであり、

24 時間ほぼクリスチャンに会います。

ところでここに来ると反対です。
ほとんどクリスチャンではなく…

ところがこの環境が私にとっては大きな恵みだと思います。
授業で学生たちに聖書を教えますが、思うようにうまくいかないことが多
いです。
伝道の実がたくさん結ばれない時も多いです。

私だけでなく皆さんも同じですね。
私たちが信仰生活をして教会を運営していく時も
思い通りにならない時が多いです。

しかし、じっくり考えれば、私が実を結ぶ方法は一つです。
それは私がイエス様とつながっていることです。
一日一日、イエス様と同行し、生きるときにイエス様が実を結ぶようにし
てくださいます。
イエス様を離れて実を結ぶことはできません。

世界の終わりまであなたと一緒にいると約束されたインマヌエルの主、
イエス様。
今でも私たちと一緒にいます。
私が手を差し伸べると、主はその手を握ってくださいます。
そして実際、その選択は私がしたことではありません。
私が主を選んだのではなく、
主が私を選んだのです。
そのため、その関係は固いものです。

今日も主は恵みと祝福が皆さんと共におられることを祝福します。